

0438



攝津名所圖會

豐島郡
河邊郡
六上



291.6309



攝津名所圖會卷之六目錄

豊嶋郡

箕面山 本社 鎮守
 泊龍石 天上 巖
 唐人度巖
 石積瀧 龍女 祠
 朱雀池
 觀音石
 寺尾千軒
 陽松菴 愛宕 河
 猪名堂原
 吳織神社
 猪懸松
 猪令寺
 櫻橋

久安寺 本堂 行有堂 舟楓
 箕面富 觀音堂 神木
 如意輪寺 三結松 龍穴 眞龍泉
 細河神社 山堂 鎮守
 菅野之平墓
 為那都皆神社 猪名海 猪名浦 猪名湊 猪名中道
 穴織神社
 織殿古蹟
 高法寺
 小蟹川
 梅忠臺
 池田古城
 星御門
 唐船測
 深級井
 梅室暖室
 荒木橋津守墓
 五月山

安倍晴明墳
 池田
 名春種樹
 護摩堂
 茶師堂
 逆川
 菩提寺
 名春種樹
 荒代橋
 慈恩寺

武庫川女子大学図書館	
昭和	年月日 29. 6. 29
	AK
17093	7



佐伯山

佐田愛宕

大廣寺

牡丹花回躰

有岡古城

兼好松

猪名川

釋迦院

牛頭天王

十二宮

住吉祠

待兼川

亞坂山

待兼山

為奈祠

七門井

瀬川清水

鈴石

奔慶鏡水

菅原峰嗣山莊

和泉三郎塔

千里山

千里川

寶珠寺

仲眼寺

傳然山

阿比大神社

豐鳥牧

天竺川

禁蚊家

原田神社

南郷春日神祠

櫻井春日神祠

藤井三郎碑

名春標梅菜服

垂水神社

長柄橋柱

裁松寺

三國川

多田院

多田川

移ヶ瀬

旗指山

新田古藏

神廟

本池堂

九頭神祠

光遍寺

敏ヶ瀧

夫向邑

日玉山

多田莊平野温泉

小童寺

多太神社

源經塔

瀬井

煎銷塾

一庫湯

名春一庫炭

普門寺

銅山坑

銀山村

屏風巖

裏屏風岩

烏帽子岩

鬼ヶ門

波豆川

大舟山

大舟寺

高賣布神社

馬蹄七ヶ岩

壺蘆石

蓮尊寺

満願寺

足形石

法善塔

多田保昌塔

西明寺瀧

仲光家

平居山権現蹟

四氏舊屋

玄雀瀧

大池

山本善孝百屋

本接丈夫百屋

行基掘岩

食堂

山本窟

中山寺

藥師堂

愛宕祠

鏡梯

二王門

白鳥窟

護摩堂

血形天神

瘡瘡神

小隨卷

獨銚尾別院

初使川 清澄寺
本堂 清荒神祠 加持水
影向神 熾魔王宮圖

賣布神社 寶冢
川面神祠 小濱驛

奥村信屋 尾福村屋
法仙寺 慈眼寺 鑲八幡宮

毫攝寺 見佐神祠
安倉 觀音寺

崩野 小戸神社
昆陽寺 本堂 大日堂 護摩堂 弁財堂

昆陽世 金剛寺 生持堂 昆陽世 鑲

飲善天 梵天王 猪名權現 荒府池

岡山塔 二天門 猪名小笠 和泉式部塔 玄林寺 同蹟

禮拜石 荒本自然塔 野宮牛頭王 為朝八幡

過碑 伊丹 猪名寺 佐伯家

荒本攝津吉城 墨深寺 寶冢 首家

猪名並原 食備家 猪名寺 寶冢

萬古王墓 琵琶冢 落馬冢 御願冢

高師直塚 火焰王廟 浮空房紅葉 西明寺

白井之王 武田勝親墓 伊佐具神社 正玄寺 昔松

茨木重出生沈 冬和妙貝堂 潮江 神茶松原 吉備津祠

神崎川 神寄渡 浦初岩 判官後旅宿 遊女宮 城墓

長洲 長洲天神 大物浦 廣德寺 大物宮

尼崎屋松 本興寺 海峯寺 尼崎城 法園寺

芦刈島 栖賢寺 櫻松 大覺寺

如來院 耳落寺 貴布禰祠 仲の火

祝津宮古蹟 難波村梅 名月塔

浪速難

箕面山
看丹楓

拾遺
あつた
ふく
みゆ
あま
あま
あま
あま



新古今
 おまの
 おまの
 ぬらたれ
 くれ
 小と
 山川の水
 二休院
 濱岐



其の
 聖天宮
 一者居





箕面 惣門

ま本 西志のく

みのおれ果の

箕垣ふ

ま本 西志のく

西志の舞

西の法師

毎年正月朔日より
修正會とをまひく
満座の七月十六観音堂
のあま富あり年
古た半く世り
名る



豊嶋郡

豊嶋郡 東へ海へ郡の界公限を西へ近郡の界公限を南へ西成郡の界公限を北へ北勢郡の界公限を

箕面山麓安寺吉祥院 聖護院小属次

西志のくみのおれ果の築垣ふとまひくむる當乃聲

みのおれ果を親つくは當の席松のやをを松のまを

本の間より宵の月れとらまひくまのまを出ゆ

本社大辨財天女

本堂如意輪観音

鎮守

聖之尊社

箕面麓

役行者の他長を尺寸辨日本四所存之のま一あり
近州竹生郡相別江崎郡巖峯山等公竹入
智證大師の他
長尺尺辨
役優婆塞自他
行着堂
加持水あり
行着堂の儀小のり
加持水あり
役行者若徒練りの時
出現一や人之本朝最初の尊とといふ
岩面公走る落
半尺七十六丈麓壺より泡は流半珠かちくまうとく考
日影とく燭く瓊瑤洞公奪入云く墳
龍の身二と久瀑の上小碧潭ありまを龍穴といふ村民早
遇ふ付くに禱とを忽
青雨際るを

つとて西志のくみのおれ果の築垣ふとまひくむる當乃聲

西の法師

西の法師
西長明
仁如寺法親主
賢性

箕面みの龍のりゅう

日照香爐生紫烟，
遙看瀑布掛長川，
飛流直下三十尺，
疑是銀河落九天。

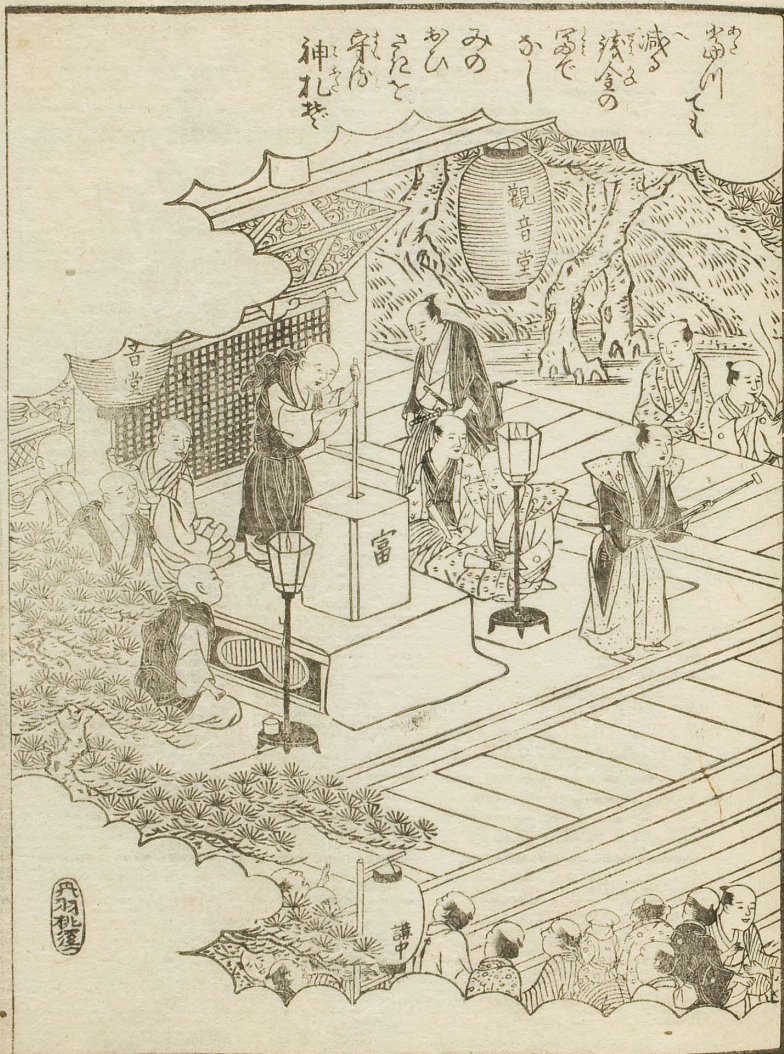
李白



深谷
葛のた
みおた
松戸ふ
た舞
麻の香
さうろ

湯尾
乃のりゅう

陸長明



日 八
かまてをよまの海に雲かたにのりて勝とあるをた 後九東

三結松 龍の上のありて葉うさぐさ其色四時蒼々として豊しく勝水に影に映るる附い光あり故に一名三光松とて又役り者葛城の巖より

三結松 龍穴の側あり岩隙方三丈許深淵小

奥飛泉 大龍の雌龍といひまは龍潭とて

座禪石 真の龍の上のありて錫杖石 龍杖と立ちあふ

白龍石 日内小あり山守財天白龍に奉り滝臨し中

天上嶽 登山の絶頂といふ役り者あり

唐人辰巖 龍通ふあり岩若くは路を遮むる朱朝の唐使は勝比致むとて

それせし舟楓多くと秋の末にこの樹を錦繡の如く龍の流に紅と濯り

推し錦着々家も還る山傍のまはる流ぬわのを襲くと風のひらきあふ

蜀錦と布あり立田川の杖は高雄の山は夕月かげ通天橋とありまきて系師

流るる駿人相業は流るる繞りまはる月とる時をたのほひ楚老とあり

わくをを思われり抑せしは後優優塞の関基めく白椎年中の創建東西

の山を嶽とて二部の曼荼羅とてわ水の翠巖峻とてく不二の

層巒と頭は龍水の長流萬頃の田園と潤け嘗て飛泉の巖石は見ゆ

左右高峙と流頭も亦爾ら方遠も眩れく流と滴をわめ具形算の西孔

ゆ故ま名をたへりしは地は諸堂魏をさる兵乱罹く荒蕪の後慶長年中

今の地は移居本社存財へは後水尾帝の所建ちの勅と下しの中園基役

小南の和州葛城上郡荊原郷の人へ少くと敏悟特賞殊少佛系を掃一年

三十二つと葛城及巖窟は居りゆす午修茶藤葛城とて松果は

喰ひ孔雀明菩薩と持しと五志のまを駕し仙府を遊ひ鬼神と驅逐と使令

さ日月域のまを區と修羅とを事治通し一日葛城より鏡の方を垂えわく瓜見

かひ一の三結松を投りて遠まを中へ入つて真面山龍頭の松をわき掃り者い地不

至り更老急忽焉とて現し玉珠の磨磨禪とておほまののさあふとて

てわかく去り者その教の如く龍宮城に入其内龍樹菩薩とて行者とて小待半

久しは勝地を浄土を財を法と擁護しゆすとも早まを新元安重慶

後一杖乘の密法不遺時かろくそ深秘の大法志郡の賢曾よりく
 授中より若存存一書本より引きて存る多儀を列和と遠平より其後大略
 前編のりく之川もい存財を勸法し中敵ふけふ女なる味を待りたる
 聖王尊も初て出現の靈地宝窟神もま初現の名匠に朕命部の中書之日徽
 明王徽璽玲瓏等の秘法の厨伽舟のりく真珠勝蹟之代々の 帝も詔次
 改しと寶祚延長禱の雨降るの例多しと之聞ふれ 帝も詔次
 箕面富 僧正會より毎年正月朔日より七月の向天下全五穀豐饒の御徳あり七月此編を
 入親善堂の希世摩く大木輪をりく寺僧王禪とみけの社に記げ難やくし礼より
 秘法の作證と授くまふ公僧のりく忍幸ましく廣實を起る靈驗ありといひ
 法念の諸國よりましく自然富饒の神礼と得るの道中より宿夜夜通したる
 あれ禱言化一救ふ身の風俗又此富饒のりく金の海に投りく目的のりく者
 林礼と聞ふといふ二月朔日より三日ましく彼二舎より官家より守る者
 賜ふ御あり持舟財え倉輪鬼神の靈跡よりと指后明林とい富會を年
 ぶらた半よりわ舟小窟突山と遊りたる幸あり
 若代富家山のさくふとく之をばさふ後代よりくた 兼隆
 如意輪寺 如意谷村のあり真言宗本若如意輪觀音弘法大師の化六月十八日法會
 鎮より春日洞の生主神と候又又慈教向石あり

止るは美古城 上より是も多田瀬の裔神馬場信高の古城今ふ苗孫は郷中ふ
 石積瀧 泰山ふあり石積瀧のりく泰山のふ寄ふ高松三樹あり遠境より
 大澤山之安寺安養院 伏在村のりく古哉真言宗
 本尊土面觀世音 定朝の化 向山初基僧正 中興賢實上人
 護摩堂 不初多々 阿弥陀堂 阿弥陀如来
 仲教堂 安法入神徳 鎮守白山権現 尚ふ地之神
 薬師堂 瑠璃光佛 荒神社 尚山伽藍神
 朱雀池 本堂の茶ふあり四神相應の 若女龍王社 朱雀池の
 系財之社 朱雀池の中ゆふあり本神倉輪鬼神 恒例より一五年
 村民群衆より福財と祈りあり

二王門 金剛力士の二天と安に 勅額 久安奉 近衛者の宸翰あり
 通川 二王門のあり川とあり 久代橋 通川の橋と勅額あり之其の二宮
 観音石 本堂の西ふあり保延五年泥堂圓祿の時火中か飛出い石上より
 光昭公教中へ故に一名光明石と云

車籠くるまかご 尚山の東二町許あり 古武藏 尚山の北

大満宮おほみみ 子代格の側あり 尚山の守護神なり 又丘山に基原山とも

小鶴庭こつるに 尚山坊中あり 若木寺石多し 豊后勝君に依りて

菩提寺ぼだいじ 子代格の南あり 尚山の西院

慈恩寺じおんじ 尚山より八町許の方あり 今毘沙門天に安んず 運慶乃

寺尾千軒てらおのちせん 白木の依尾村の一名あり 樹房殿あり 舎を

連理れんり 車磨の水上に 藤の流二水に分れ 唯勝雄勝と成又未

安谷堂やすやどう 北谷堂より一里あり 名所あり 七水面に照り

水槽清水すいそうしみず 尚山の山内あり 中の一池中の用水に 今城より

愛宕祠あきたかひら 尚山の山中あり 毎年七月廿二日祭

又小水より秋の末に紅葉の錦繡風なり 紅の流と揚るあり 安谷堂小鶴の

庭は岩の隙のしり 日光の長足に流るる水あり 押し寺菩提初基の洞壑

あり 親世より重協の初安養院と号す 聖武帝神徳二年に基緒名川

の邊より人々の老翁は遇ふまゝに銀子金幣を手に持て 喜師と待奉年あり 月是

東親自より重圓の甲子に舎を造りて 聖武帝神徳二年より 則其地より

至りて 小水のありて 流るる水は 伏見に基密に神祀を修す 水急流あり 陸

地と成故に今運川といふ 流るる水頭より 林密に遠く 東長流偏より 南

東麓にあり 北の麓に 聖武帝神徳二年に 聖武帝神徳二年に 聖武帝神徳二年に

輒梵刹創るの思ひあり 老翁曰時來く 聖師小水に 吾願は満足なり 汝は白山

妙理権現に 應小佛法を守護とす 言已く 見度村に 異香あり 小満水に 聖武帝神徳二年

天樂遊鳥の澤中より 老翁放ら 爾は檀金所造の千の文の像を 其長き寸

歩の基に 喜んず 僧伽和合に され奉り 已に一字に 捕く安んず

精修勤行の時 天皇其瑞瑞と聞ひて 詔て尊像を奉獻せしむ
并精藍を創し 其左右不動多門を造り 二十部衆と云ふ
本堂の西畔に坐觀神を構へ 伽藍神と云ふ金堂を築き 講堂を設て
毘盧遮那佛と坐其旁 五丈尊を安置 多宝塔を五佛及び佛舍利と藏む 其外
食堂 鐘樓 僧房 童子の樓 門の西に一院を構へ 無量壽佛を安置し 斯くも
安きと云ふ 又代樓の南に昇壇を築き 地蔵尊を安置し 其左右寶管十王の
像を並置し 鎮守の神祠 經藏を備へ 車籠 初白権現 游化の遊龍の老車の輓
轡 同敷ひ 名を連理龍の流しと云ふ 又流しを又の頂北に天王弁財天
大黒天と坐て 慈圓と号し 心中にびく大伽藍あり 今神社遺事なり 天雲中
弘法大師錫を駐し 密教を傳へ 般若經を著し 又復と撰ひ 或は女龍王と
語して 早荒を消し 或西部の曼荼羅を寫し 附異々を法要と稱し 其
後一條院治安元年 勅し 併て 聖朝二日禮の長を尺寸す 又天雲の傍に他
り 初の金像を白月中に藏む 其靈應目之新に 保延六年の冬 火厄して 本堂

講堂悉く燬盡し ありと 衆僧を遣はし 本殿を奉り 見れば 既ぬ 教を至り 西山の
岩上 光怪あり くと 聖の尊像 儼然たり 迦流院に 聖驗と 處圖あり くと
久安元年 勅し 七と 興ふ 及び 特小宸書の額を賜ひ 久安と 號し 晨淺夕梵
の字を 林岳に 應と くと 一方の名刹に 其時の 寺職 賢實上人に 不測のく 道あり くと
徳慶 其姓氏を とも くと 其樹 林の あり 以上 且 詔あり くと 宮中 に入 法を 説
し 龍顏 悦喜 あり くと 宸書を 賜ふ なら 先 多 院の 皇后 所 奉 の時 賢實
上人 安重 公 禰 加 持 其 功 有 くと 皇子 生 次 是 則 實 公 皇子 永 治 元年 并 侍 せ 且
近衛 帝 之 所 奉 安 泰 之 あり くと 附の 人 不 死 王 村 林 次 後 其 之 之 幸 伏 尾 且 改 たり
故 賢 實 上 人 之 あり くと 中 祖 之 あり くと 祥 寺 記 あり くと たり

細の神社 右田村慈園寺山あり 延喜式内今毘沙門と稱し 之安と奥院と云
毎年正月十五日 厨舎あり 細の谷六ヶ村より 遷り たり
名産種樹 細の谷より 芳系 師 傳 述 及び 諸園 一 如 次 都 へ び 延 之 地 理 北 の 方 山 岳 あり くと
右田村のあり 禪宗曹洞宗基天柱和尚 享保年中 之 建立 之
少林山退風崎陽松菴 右田村のあり 禪宗曹洞宗基天柱和尚 享保年中 之 建立 之
釋迦佛 客殿 肉暖堂 客殿の後ろあり 南山山門額 派北禪社
二世等の肖像あり 安に 系極宮御書

伏尾村
久安寺



拾巻

秀のあやふ
のみちの
希小ま
川原の
まねま
あは

健守法師



久安寺



日本外紀

山家

花の香気
つゞく
新玉
吹く
さし
と
風の
ち
あ
り

久安寺



為那都比古神社 向徳村あり延喜式内 萱野谷十一村の生土神と云今大宮

後田信長葛山右邊に命と云 抄別ノ神社に 剽落其時神人牛頭
天王と神孫に改め 慈新に牛頭天王の信長の氏神と云 其難人
免と云 終小存に例来九月十五日 神夢公同郷五箇の神社に 併
の人々へ白幣二十枚と持け 神馬を足 神主社傍十五人村民をく 伊奈
五ヶの神社へ 伊奈西伊奈今宮村
芝村宿村等あり

大宮寺 口所あり 為那都比古の神宮寺に 醫王山持寶院と号 吹向基ハ

佐道の造立と 毎葉 醫王岳 許又の名茶所石と云 播別静々 齋
正月不修正冷あり 齋殿の類へ 所也 己貴明彦名の二神 生す 辰の地ふり 医王
石と 称せらる 二神ハ 醫道の祖

萱野の平屋 萱野谷芝村陽光院あり 其行卷義あり 播別赤穂 城主清平彦小

仕元禄十六年春正月十四日七君の仇に 報し 義光の 岡郭道義居士と

安倍晴明墓 本畑村あり 一説小安倍泰成カ 塚と云 便小分明あり 此

そと 又 後小一の小塚あり 晴明ハ 一ノ 陰陽師カ 高傑あり 二
賀茂保憲ハ 子あり 今の土御門家ハ 其裔あり 二 安家と号し 陰陽
道ハ 學ハ 保憲ハ 後ハ 今 幸徳井氏と云

猪名笠原 猪村小あり 猪名ハ 都て 豊修郡より 近郡に至りて 笠原ハ

わやくも志れふ也と 彼ハ 猪名の笠原と云 たり

猪名 入江より 通船あり 又 所々小橋あり 又 渡溪の名あり

猪名海 猪名浦 猪名濱 猪名沖 猪名湊

猪名中道 等 あり 小海あり

浪風 浪風吹せ 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

志れふも 海小艇と云 たり 小艇より 風吹せ たり

志れふも 浦より 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

志れふも 浦より 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

入船の猪名の浪風 浪風吹せ 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

大船小あり 一吹せ 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

浪風吹せ 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

うきと云 浪風吹せ 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

おのり人あり 志れふも 猪名也の海小艇と云 たり

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

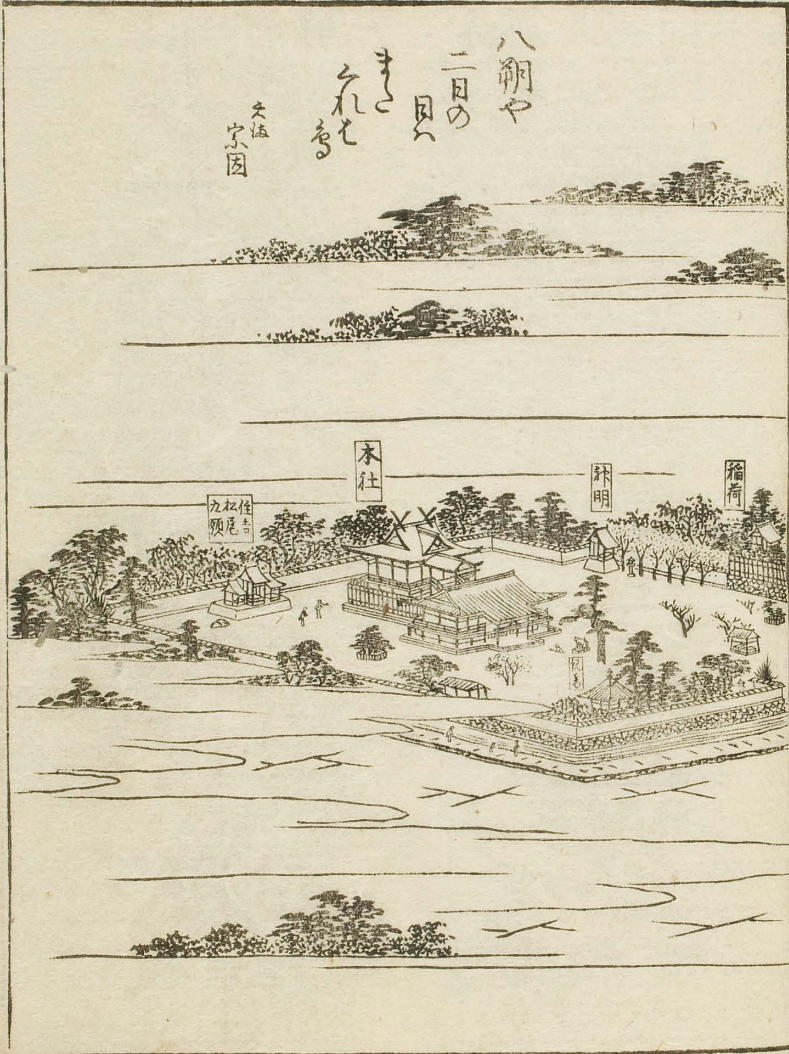
猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

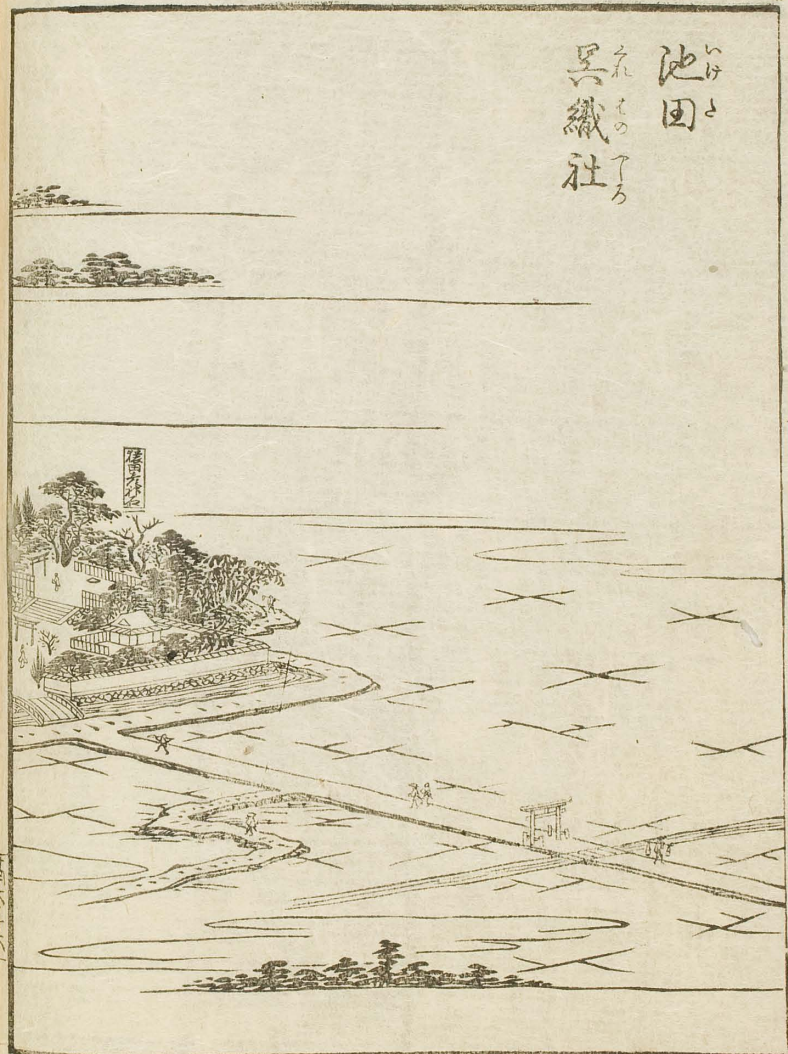
猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

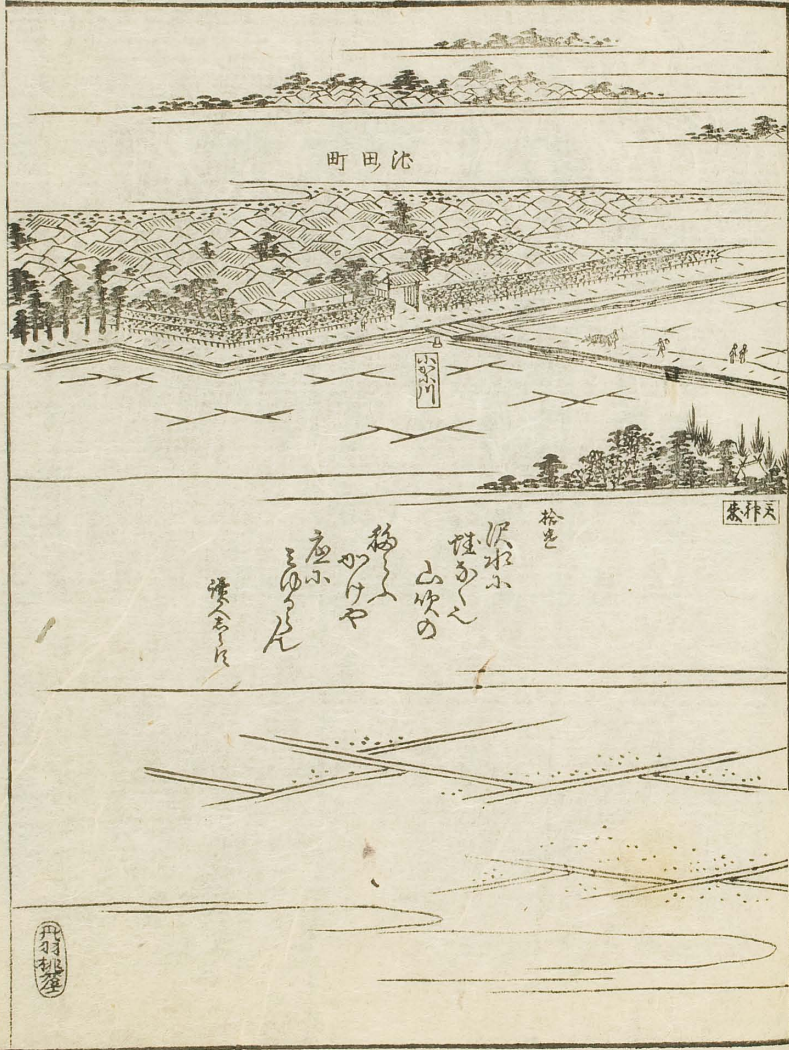
猪名の沖わおいまと 考げと云 たり 歌枕名 寄小

八潮や
二日の
貝
ま
これ
宗因



池田
呉織社





天保



池田 同名 豊後郡 都立の地ありて交易の商人多し 志色
 北の方北山家より所々の者おぼしめし出く 船の寄る所
 中々極く造る所ありて酒造りの家多くありて 猪名川乃流
 酒と賞しよく名譽と又北の方北山家より炭炭多く製し
 出火の所の市屋運ひ交易をせし池田炭といふ茶屋の産
 中々焼く可く又茶種苗名産といはれ 池田の町名十六丈本集云
 振付園池田又遠に圃小同名ありと云
 素
 そのつれ里ハ川瀬と成りたり爰も池田の同じ名ありと
 兼仲 泰清為相

いはくこのあをなせるたるもの池田の里小まなかりつ
 兼仲

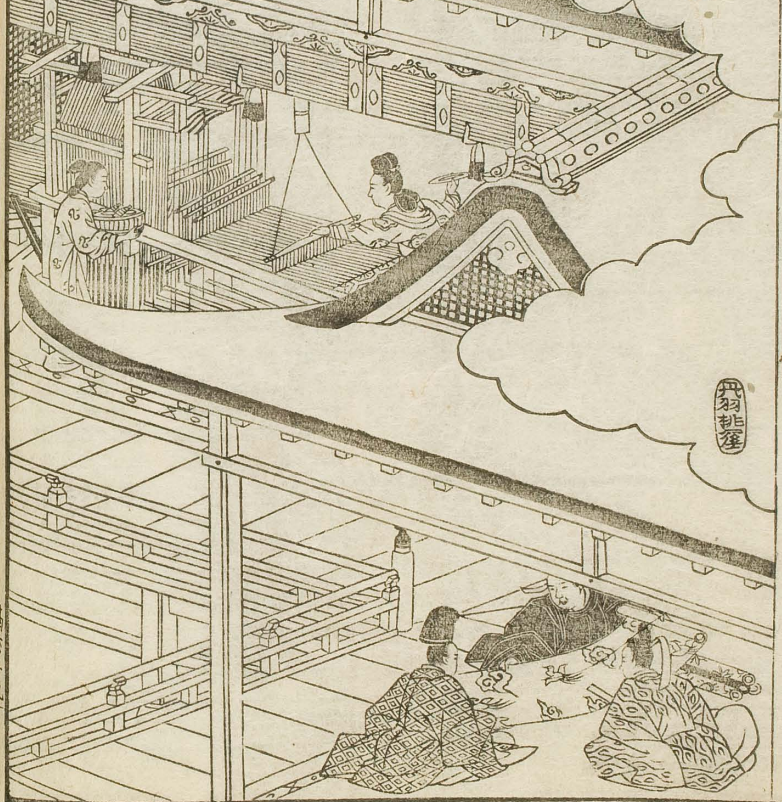
呉織神社 池田の町南端ありて此の生土神といふ例系九月十八日社内子
 猪名津表の祠南向右あり未社五祀親若堂あり

穴織神社 猪名津表の神籬あり未社五祀親若堂あり
 或記曰此社の本神伊居多神社あり延喜式神名帳少少の志那小
 載り則ち一ハ河辺郡小坂田村小あり原池田ハ呉織里中つ
 一ハ呉織祠あり中古本社伊居多神社小坂田よりさくたつ
 建く里の名改改く伊居多つ 後小池田と文字亦改改社号の
 伊居多も呉織小ありびく穴織といふ 喬隈小坂田今神幸乃
 沖後所と改改れ池田莊繁花ある以て此由縁南郷春日の社記
 又西城郷加峯神祠の喬者賦公
 観く詳にせよと云

日本紀曰
 應神天皇三十七年春二月遣阿知使主於吳

令永絶工女爰阿知使主等渡高麗國欲達于
 乃則至高麗更不知道路乞知道者於高麗王
 王於是與工女兄媛弟媛吳織穴織四婦女云
 一同帝四十一一年春二月使主等自吳至筑紫時
 一十歲大開饗是月阿知使主等自吳至筑紫時
 宵形大神乞工女等故以兄媛奉於宵形大神
 是則今在筑紫國御使君之祖也既而卒其獻
 婦女以至津國及武庫而天皇崩之不及即獻
 干鵠尊是女等之後今吳衣縫蚊屋衣縫
 是也雄畧天皇十四年春正月身狹村主青等
 同卷云雄畧天皇十四年春正月身狹村主青等
 共吳國使將吳等泊於住吉津是月為吳客道通
 縫兄媛弟媛等泊於住吉津是月為吳客道通
 磯齒津路名野因三月命臣連迎吳人即安置
 吳人於檜隈野因三月命臣連迎吳人即安置
 輪神以子媛為漢衣縫部也漢織吳織衣縫是
 飛鳥衣縫部伊勢衣縫之先也云云
 三代實錄曰
 貞觀四年後漢孝靈皇帝四代孫阿智使主與
 坂上大宿禰
 同祖也云云
 唐船 池田猪名川の中あり 應神天皇三年吳織穴織の二女妹朝一々
 けれく氏村田圖とある 然れども
 けりい船名今も遺る

應神天皇御宇
 漢人呂振穴織の
 二女ワケケ錦
 織を奉りて
 永く傳へん
 京師西陣の
 町小路々々
 何々の
 織多手
 自左之
 兼好が
 茶種の外
 唐土より
 上流のお
 けりて
 身欠
 いそれ



丹羽雄策

け事
 あり
 立
 立
 人のあはれ
 ねれ
 編
 貴之



深殿井 池田兵衛社より南田圃の中ありかの二女は井より糸が深

糸繫松 池田の五ヶ山願ありかの二女糸が深くはね小

織殿齋蹟 池田の南の田舎に兵衛野といふ其の中の田圃の字小あり

星御門古迹 池田の町の字小あり二女糸が織一付光ありと云ふ小松と

紋 紋のやあるを色をわやハヤリ

梅室姫室跡 日所の小ありかの二女葬一々入後核が織の具と

壽令寺 池田小あり 醫王山

本尊薬師佛 兵衛六歳の二女素頼の時海上護持の尊像あり初基

将末の業師也末道師唐船御あり伴法值遇法律杖一

早くはわが探求く宜く伴場な徳一々ハ基勢たは初に

伴セ御座と探るき像が厚なり基は地がまんとする小伴像

巻くして磐石の如し有縁の地あるん々々竹室が結び

き像と安座一前十二神將四天王と相並つ初ハ神頼寺

と号し時小天下夜宿流切ハ村底大に患ハ帝り基に勅し

ける教に釋ししハ光明ハ方小備く夜夜とくく除退せり

廿四改く壽令寺と號し

高法寺 池田小あり 律教山と号

本尊十一面觀音 南寺向基ハり基傍正ハむハ初基の名所侍兼山の

初願所ハ其後兵火の災ハ罹

灰燼とあり故ハ今の地に移

池田古城 池田の五ヶ山願の地ハ池田氏累世に居ハ文乃初年

細川晴元ハ其に據り永禄十一ハ池田範長ハ先政とて左城

一ノ前ハ興盛あり池田氏ハ

攝津見との邊あり

荒木攝津守墓 池田兵衛池小あり

墓畔ハ小松之ツあり

櫻橋 池田小あり 小松川 池田の町町端小あり

由縁ハ詳 由縁ハ詳

梅忠臺 兵衛池の田圃の字小あり能治梅忠ハは前の春ありて得ハ製

牛ハ若ハ其家宅の古浦之又理忠と云

五月山 池田の山方小あり持津志日實ハ佐伯山ハ今記ハ五月山と云

又或書曰佐伯山ハ川辺郡猪名寺村小ありと云ハ新ハ山ハ

長按と云ハ五月山と稱する年々久くハ古跡多ハ五月山佐伯山

を前二名ありハ其仲ハ佐伯のつとハと云ハ

五月山本村下家小ハりハ麻のまのまの

五月山をかち花小ハりハまのまの

五月山卯の花月夜子親きハりハまのまの



佐伯山

五月山の旧名なり

日本紀曰 仁徳天皇三十八年猪名縣佐伯部

國郡散亡 同卷曰 伯部以佐伯部仲子之後為佐伯

部造 同卷曰 齊明天皇二年佐伯部連棟繩

池田愛宕

五月山の町あり池田の町あり山路八町あり方之佐伯部の祖神とあると云ふ所
凡糸の地 毎年七月には日影未くく穀の燈籠と題く法念仏燈次が夜

鹽増山廣禪寺

禪宗曹洞

釋迦佛 客殿小安に脇土文殊菩薩實向基 文嚴禪師手撰の應永年中池田

清院朝 天賦色徹 新雲先動 袞龍衣
千官拜舞 金鬘殿 獲得香烟滿袖歸

定門といひ 文明十四年十月廿日 新に鑿碑あり其文曰

むくい山中に池あり 潮の満干あり 海水のぬき 湯もな創建の時池と

牡丹を齋蹟

五原山大度寺の境内あり又寺小
齋蹟の業は若くはのち後より

尚柏

牡丹は尚柏の祖と云 具平親王之生涯榮利と厭ひ皇織里に幽棲く亭公

無名と号けわが池海詩と傳へ琴と彈く之は香酒をのめて嬉と愛記と

賦のむけ牡丹の白くまをうたやわのさみまといふと喰く牡丹を

弊次身は野服甚甲と看 黃牛小膝と猶禱次其西南金湯と押次世人賞

トて天際とわ和の亞相實降脚具學以宗祇長と保永年中 天皇其法標と

聞ちいて便殿小徹見一竟相唱和一 帝所感の後薛と里も序も嘗て

構の乱と避く泉州堺津及び和加平城小遊小同子各世に結りて今ふ

あれと宗良傳沙畏傳といふ 永正七年四月廿年次 年十五友入僧古漢其傳次

其傳 永正七年の秋 帝牡丹を之と見ふ 後宗實降脚 勅使に宮中其言と

九月十三日あり 其小と我くらんより 後世秋の月 尚柏

有岡古城

池田の東北あり池田勝入信輝の居城之子息之友傳の遷政を奉小

兼好松

池田の古城といふ 兼好松は兼好の松竹林の中あり 里彦云吉田兼好乱と避く

尚柏



猪名川 久安寺川多田川二水本郡村小會川流也池田小至川流過田
川とて下流東北川原津等川經過一田根村に至り多
とく二流とあり一は榎堂雷田に懸く戸内小至り神邊川小入
一は石小流とて藻川とて今合満額田高田に懸く神邊川小入
神邊川小入は川筋豊後郡川辺郡の二郡に跨り流と下流ゆ
く又ハ流初復より林小至り神邊川小入一真あり一は猪小
猪名の河系と流ると今の中河原村ある一又猪名の川上
西明寺、滝より流く猪名川小至り藤川ありされ小書ありん
猪名川支本集
揚付園と云云

後橋川
六帖
年を飽ぬさのまはに志ねる猪名の流川流と云云
子香啼いかの河系と見る時をまをそとそと松はあふ
貫之

有馬山とて此川小入とて小流と云云
後橋川
伊嗣

又月雨いざれ川水とて小流と云云
後橋川
伊嗣

釋迦院
文田の尊幹村あり什寶小古鐵幹あり傳之釋尊在世の所持あり
青木疾の家臣素附とて故小地なる尊幹といひ寺に釈迦院とて川
日所あり俗に曰む釋迦如來塔は橋所とて聖徳
太子の御時置かれ釋迦の尊幹一器は此處に入置未世

引法の落と一やハ後世とて此處に寺あり此處の中
大い禁むる一説小上古王候の陵墓とて後世發て鹿と云
半ハ内なる安郡とて此處多

斗頭天主祠
七所あり一は川倉村あり一は金鼓あり一は鶴白明德二年
海邊郡神邊川田戸内等の生土神一は神田村あり上梁文曰
池田光重再建は神邊の泰りハ概の太本殿あり
夫本

子早振神田の村は福ありとて月日とて小入とて云云
匡房

十二宮
東今安村ありハ此の生土神と
天祚七代地祚五代と傳てく系傳

任者祠
二所あり一は官系村一は長興寺村あり早の村新傳の者
瀨と載と祓あり二兩公初とて忽を驗あり

待兼川
王坂村の車ありハ此の生土神とて此處に里より男
暴ひ衣毎五心公載と通ひつた中とある衣の男疑ふ心ありて坂の外
志の生土神とて此の生土神とて此處に里より男
待たれとて川小入とて面影の差とて是れ此の生土神とて

おもとさうたまりとて後橋川とて此の生土神とて此處に里より男
男みとてさうたまりとて此の生土神とて此處に里より男
おもとさうたまりとて此の生土神とて此處に里より男

正坂山
正坂村あり又龜近山或ハ龜近山とて書次
待兼川の故事と云云
頭昭

及繁 待兼山 小あり

待兼山 小あり

叔と心さるる子親と井のよき一智とさく 園防内侍

よりほろまわりの山平峰麻かほろけきとさく 後撰

為宗神祠 系神 諸名 津彦命 七門井 瀬川 清水 月村 小あり

鈴石 瀬川村 小あり 初に付 存慶鏡水 月村 小あり 泰和の西海進 泰の附 武藏坊

佛日寺 瀬川村 小あり 領主 青木 甲斐守 山 茶創 一 茨壁 云

菅原峰嗣山莊 中野 菅村 小あり 初に姓 出 登 といふ 菅原 守 居 豊 嶋 郡

貞觀十二年三月峯嗣侍淳和院奉太后御藥湯方之事由是遷為播磨少以近都亦優其身也仁壽元年如從五位上天安二年為典藥頭

貞觀五年自謝老出為攝津權守退居豐嶋郡山莊灌藥養性不交流俗十年改出雲姓為菅原以土師出雲同祖也卒時年七十八峯嗣不墜處治必切嘗奉勅與諸名醫共撰定金蘭方又針灸之取加多方法注之外

和泉式部塔 右に村無二巷小あり式部ハ和泉也道貞小法されて後權太夫平井の養子故平井保恩と云保恩ある時將小山人とて其の法及之

中 瀬川 保恩 感 永 樹 保 恩 あり 今に け 壇 の 側 と 橋 作 遊 れ 共 叔 權 あり 保 恩 の 孫 ハ 川 辺 郡 小 巻 寺 小 あり 塔 此 多 田 滿 仲 之 の 從 父 の 諸 士 あり 多 小 あり 小 あり 々 々 々

千里山 又名 麻山 又 德 也 田 村 の 上 方 あり 峯 下 豊 峯 の 二 郡 に 續 々 山 脈 二 里 に 及 び 九 十 九 谷 あり 今 一 つ と 齋 之 石 に 足 々 足 々 足 々 あり 虎 臥 之 地 也 徳 也 山 之 樵 夫 の 形 小 あり 其 處 大 あり 千 里 山 と 稱 せ 待 兼 山 徳 也 山 遊 道 山 等 小 あり 千 里 山 の 山 脈 又 麻 山 中 海 之 際 和 有 夫 本 集 小 あり 又 州 山 集 小 あり 徳 也 田 の 千 里 山 と 名 せ 夫 也

千里川 一名 車 川 又 名 箕 輪 川 又 名 田 代 川 又 名 笠 谷 又 名 二 溪 々 々 々 椋 井 谷 及 び 新 免 箕 輪 走 井 勝 部 之 屬 々 々 椋 名 川 小 入

は 是 之 川 麻 山 之 白 鹿 之 迹 乃 今 之 野 之 繁 々 々 行 家

千里山 又名 麻山 又 德 也 田 村 の 上 方 あり 峯 下 豊 峯 の 二 郡 に 續 々 山 脈 二 里 に 及 び 九 十 九 谷 あり 今 一 つ と 齋 之 石 に 足 々 足 々 足 々 あり 虎 臥 之 地 也 徳 也 山 之 樵 夫 の 形 小 あり 其 處 大 あり 千 里 山 と 稱 せ 待 兼 山 徳 也 山 遊 道 山 等 小 あり 千 里 山 の 山 脈 又 麻 山 中 海 之 際 和 有 夫 本 集 小 あり 又 州 山 集 小 あり 徳 也 田 の 千 里 山 と 名 せ 夫 也

千里川 一名 車 川 又 名 箕 輪 川 又 名 田 代 川 又 名 笠 谷 又 名 二 溪 々 々 椋 井 谷 及 び 新 免 箕 輪 走 井 勝 部 之 屬 々 々 椋 名 川 小 入

は 是 之 川 麻 山 之 白 鹿 之 迹 乃 今 之 野 之 繁 々 々 行 家

千里山 又名 麻山 又 德 也 田 村 の 上 方 あり 峯 下 豊 峯 の 二 郡 に 續 々 山 脈 二 里 に 及 び 九 十 九 谷 あり 今 一 つ と 齋 之 石 に 足 々 足 々 足 々 あり 虎 臥 之 地 也 徳 也 山 之 樵 夫 の 形 小 あり 其 處 大 あり 千 里 山 と 稱 せ 待 兼 山 徳 也 山 遊 道 山 等 小 あり 千 里 山 の 山 脈 又 麻 山 中 海 之 際 和 有 夫 本 集 小 あり 又 州 山 集 小 あり 徳 也 田 の 千 里 山 と 名 せ 夫 也

千里川 一名 車 川 又 名 箕 輪 川 又 名 田 代 川 又 名 笠 谷 又 名 二 溪 々 々 椋 井 谷 及 び 新 免 箕 輪 走 井 勝 部 之 屬 々 々 椋 名 川 小 入

は 是 之 川 麻 山 之 白 鹿 之 迹 乃 今 之 野 之 繁 々 々 行 家

侍兼山



丹波桃屋

宿

此園乃
山の
侍兼
今
人



五十七

寶珠寺

然聖田村あり淨土宗鎮守牛頭天王
為村の生土神と云

奉尊正觀者

佛眼上人塔 俱小境内あり
石塔圖の古蹟也

ひう 花山院佛眼上人と通ずる觀者之壺場也三所と噴礼し之の法
佛眼上人より遺する資内山然聖山極く上り上人揚州豊橋郡併念山
然聖權現の壺地と云くあり初活し之故山号然聖代山といひ村
名然聖代といふ今然聖田と書れり

佛眼寺

鎮守然聖三所權現三寶荒神通了權現と祀す

奉尊彌陀佛

尚古の年以て荒廢し多し邊に室曆年中法苑の規矩
法苑改く然聖山と稱くさる山号とせり禪堂の本堂も千石之悲の傍に安
胸中其南都招提寺佛本の併念村と授りて授りて其外併念山堂回廊
方丈衆寮知客寮浴室庫裏等覺かありて魏々然と山山より官慶和尚
の并所然子和尚より禪極官慶和尚が廿二世と云

嶋山

嶮岨崖巖より山中の大巖多し

阿比太神社

極村小あり延喜式云六月以新堂文德實録云授從五位下
今年頭天皇と称し為村柏村半町村の生土神と云

豊島牧

右諸國所貢馬牛各放二件 牧二隨二專二繁二用二云云
續日本後紀曰 永和八年十二月攝津國地三百

天竺川

水係論聖山より流り上津橋標榜と傳く三國川へ入りぬるく
多岐のく運りて歩み及ぶ故に天竺川の俗稱あり

禁牧家

東細村の村甲の居院へ傳云弘法大師諸國巡り且過りて
夕べも宿りたり夕暮月交暑夜一夜と云るを之れと云所くたの
大師大に宿りたり夕暮月交暑夜一夜と云るを之れと云所くたの
今も此家の畧然といふと云 故に此の如く封じたり
此の群の半依に同じ其壺めある半後世に至りてもこれ公
奇と云

原田神祠

極村の南出口あり系神女屋素盞鳥尊日神月神 禰玉命
禰田媛命之例糸九月九日莊内十一村の生土神と云 又恒例と云麻の
頭と造り神事ありて臥舞祀氣といふ半ありて 南都春日明神
より使小麻の麻のまひあり

南郷春日神祠

小谷瀬に南郷村あり尚社の兼平年中平將門征伐の初禰小
と云其外南都の神領拾捌小谷七万石余ありて由尚社大田文五と云り
南都より神領の存領川に南に方北に方の名あり神主今西氏に南に方の
社家ありて今相後次神事也 後醍醐帝の繪旨二通 後二条院の宣旨
後光嚴院の宣旨 後村上院の宣旨具外 將軍家の神領文到彦の簡牘
官家の刑状古證文段一百餘通あり又文治年中より天正の末まで乃
田圃の地籍百餘巻あり及ぶ元龜天正の云乱り懼く社頭文小荒禰
て今りの必し南郷生土神

櫻井春日神祠

小谷村あり極井谷五村の生土神と云 麿口小宮祿三年極井谷
社頭ありて法吟耳味姓氏録に云り極井の燈に右京諸蕃極井宿禰
の後に此地の宿禰の領地と云

櫻井

社頭ありて法吟耳味姓氏録に云り極井の燈に右京諸蕃極井宿禰
の後に此地の宿禰の領地と云



夕
 暮のゆき
 おのりきりぬ
 舟りしひか
 そのあつたぬ
 人かきりぬ
 ことれぬ女



き
 子
 暁

海
 の
 舟
 八

舟
 の
 暁

藤井三淳碑

寺内村の上方親者なる藤井三淳初唐書城青山藤井三淳の碑... 藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓...

名産椋鳩菜

藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓... 藤井三淳の墓...

岳水神社

岳水神社 八十萬の時祝賜布二端云云 例祭六月廿五日晦日

系神

系神 豐城入彦命 崇神天皇の皇子也 或云延喜式内常陸國茨城縣社と 同降宇一と云已賣命 少彥命 今と系と云云

岳水

岳水 社頭あり 岳水村の味緒... 岳水村の味緒... 岳水村の味緒...

裁松寺

裁松寺 岳水村あり 標榜山と号なり 伊和と云云

本尊觀世音

本尊觀世音 聖徳太子御化寛永年中興り 永享元年二月の記公傳云

稚子暎

稚子暎 岳水村社頭の 西の方なり... 稚子暎の碑... 稚子暎の碑... 稚子暎の碑...

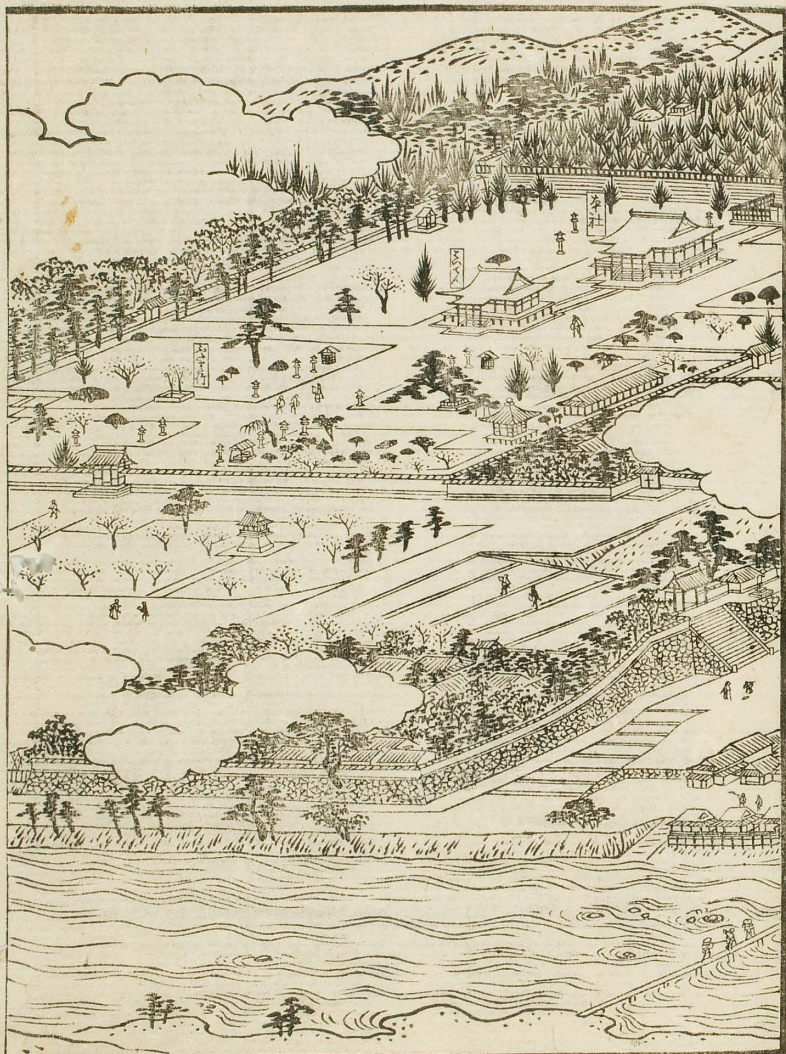
三國川

三國川 又林邊川といふ三國村より岳底郡三浦谷へ入る三國の川なり

徳政六年



多田川
後瀬



多田院
神廟

多田川



多田院釋堂
田 迦



河邊郡

東へ豊郷、北へ二郡の界小至る、武庫有馬二郡の界小至る、南へ海濱小至る、北へ丹波多紀郡の界小至る

古事記云、仁徳天皇為大后之弟田井中比賣御名代定河部

日本紀云、推古天皇二十六年勅遣河邊臣於安藝國、令造船使、得好材將斧、時有人曰、樹有神靈、不可伐、河邊臣曰、其雖有神、豈逆皇命耶、多供幣、帛、祀焉、使斧丁伐之、則大雨雷電、爰河邊臣案、劔曰、雷神無犯、伐丁罪在、我而已、仰待之、雖十餘霹靂、不得犯河邊臣

鷹尾山法華之昧寺多田院

多田莊内あり、真言宗、南都西大寺より、好恒

松法の法小く、月々もぬく、その位若乃神

本殿多田權現系神、中央源滿仲公、右向源頼信、源頼義、滿仲の背後、赤茶井四段の付初て源の姓、成勝、其の神容、五十有餘、茶の付、河の調別、の、神、終、之、遣、錢、草、毛、の、馬、小、踏、織、威、の、鏡、と、着、し、金、鈴、銀、辨、の、太、刀、と、佩、所、の、丸、右、小、弓、箸、と、携、り、入、致、終、あり

神廟、本社、の、奥、あり、中央、滿、仲、の、東、の、方、頼、光、公、具、外、丸、右、小、連、枝、の、方、足、利、將、軍、十、二、代、と、の、遺、骨、と、藏、じ、備、仲、公、神、體、別、

吾没後留置神於此廟窟可護弓箭家、加之以當院鳴動兼而應知見四海安危也

源家之安危者可依當院之盛衰

亦曰 滿仲主判

文明四年八月十七日、時將軍足利義政公、祀祠云、正二位万代守護權現と神跡と、敵は又、近年元禄九年丙子八月廿日、詔、賜正一位多田權現、勅使藤波從四位上神祇權代副兼左系大史大中島德忠朝臣

正堂 中門の外、方、あり、釋迦佛と、奉、じ、本地堂 中門の内、東、の方、あり、忍持菩薩の祀、不初、ま、か、安、故、

六所社 釋迦堂あり、あり、之、原、多、神、作、善、辨財天社 中門の外、六、の、の、あり、善、龍、權、現、慈、尊、去、日、輪、卷、賀、名、瓜、奈、侍、辨、財、天、社、若、安、龍、王、輪、蓋、龍、王、が、あり、

末社 愛宕多賀三菩薩神、大満宮 中門の内、東、の、青面金剛祠、大満宮の南、小、あり、御供所 中門の内、東、の方、あり、拜殿 本社、の、中門、の、外、の、鐘、樓、外、あり、熱門 中門、の、外、の、

丈多田院、の、傍、に、源、滿、仲、の、墓、廟、あり、圓融院、寺、清、宗、丈、禄、元、年、の、創、建、し、源、賢、傍、都、古、小、寺、鐵、一、の、入、け、傍、都、則、滿、仲、の、資、三、男、美、丈、丸、あり、柁、天、小、日、月、皇、辰、あり、地、小、の、河、岸、本、あり、尊、卑、上、下、一、て

君と成るる君と則皇帝王后后則源平藤橘の四姓あり所謂
聖武帝葛城王不始く橘氏と賜ふ天智帝内府藤原足公始く始て
藤原氏と賜ふ桓武帝の皇孫高望王と始く始て平氏と賜ふ源氏ハ
人皇五十六代 清和帝の後流之世君の身一宮貞明親王讓位受禪
ありて 陽成天皇と號する第六宮中務卿正四位上貞純親王と
一條大宮桃園宮舊蹟東の水 住する所子孫經基王と申する第六の皇子
の御孫たる少らう世六孫王と稱する 旧跡東の水及び那 比王の御孫
中と武藏守橘朝臣敏有の息女ありて延喜十年小僧嫺ありて後かく
妊身と稱する少らう十二年四月十日而出誕ありて少長ありてと
文武系備の名將和家の準人多田備仲公と稱する君と冠乃時父
六孫王と俱出陣する少らう平将門九州ありて純友等乃強
敵と號する少らう時佐の瑞籬小倉籠ありて七日七夜の前掲行初念仏
凝り再拜願首の後靈爰と號する少らう多田莊小倉ありて九頭乃毒乾

と平げ天祿元年二月十日多田莊小倉入城する少らう少長ありて新田城
と號する少らう本々神明授與の地ありて此の村の橘と名する少らう橘
と名する少らう少長ありて山岳崎嶇ありて馬蹄建つて城壁凸出ありて
少らう橘城と名する少らう要隘之北四家の所時始て源の姓を賜ふ
由是橘和源氏の始祖と称す少らう少長ありて少長ありて少長ありて
少らう少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて
七十六歳の時 華山上皇寛和二年少長ありて少長ありて少長ありて
法禪と覺信と改む美丈丸の命ありて少長ありて少長ありて少長ありて
働哭一帝常の少らう少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて
師質の契法ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて
一寺に建堂ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて
寶格鐘樓僧院庫裏方丈ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて
教月の經管功成ぬ期と供書の日ありて少長ありて少長ありて少長ありて少長ありて

所賢子二十人導師小從入堂以幔幕の東西列居左右
の伶倫鳳笙龍笛調々萬杖樂奏以導師額文と高らふ
讀上々教判ふ乃院内庭上小群集々々膝を坐し肩瓜峙
聽衆感涙と落さぬと者か一法舎已小終一々伶人又舞樂
奏次は後導師二炷の香拈下々施主大檀那二世懸地備足と
祝一のハ布施の役小候ひなる殿原金銀珠玉綾羅錦繡小申小
及つは倭漢の珍寶山のゆ横上を輝波て足ふ々々事々
は土地住吉大明神より授與一々一々盡場之具後長徳之八月
廿有侍長々々かの聖詔と遺一安祥め々々逝去に壽八十六
とを圓一遺命小奉一々當小廟に蘇小聖訓虚々々今に
至々々盡瑞新之又遺病小々々銅鷹と悉く放れ々々去々々
年来の契公志は其境内公去々々々因茲小稱とを々々々々々
厥后忍性菩薩中興一々道化弘く振々百代 後御院文明四年

八月十七日官原の信立初の上卿と勅使々々々賜後と授け又寛文年間
至々々將軍家より有司小令一々多院と再當め是今の殿堂之
多田の神寶之貞純親王の御眞籙滿仲之御持の弓袋信吉神靈友
の御記の御眞御神太刀 御若國安綱の御他々々々々々々々々々々
等の御指旗之条小銀治金剛兵衛等名他の大刀其外長治二年
二月の國宣文明四年八月宣令々々位記建武以隆奕代 將軍家
の喜捨文細川賜元高園預文赤松依々々々々々々々々々々々々々々
尚院へ風走眞妙々々々々々々山の皎月多田川の流流小廣々々々
條々々々々々路斜又佳境り々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
多田川 水原之瀬谷より出々津村に至る津川とひの家合相想田等々々々々々々々々
移々々々 多田川あり俗傳之む一八幡宮教向の地之神像あり面小川に砂雲金の
旗指山 多田村小あり御密高御軍一々一郡の秀嶺あり曾々備仲之い
新田古城 多田を新田村小あり備仲之居城あり所之具後鹽川御若々

結のふれ
あつろ
とあま
滝の若
土芳



多田
鼓ヶ龍

山花標



標の川の
上へ



富羅山

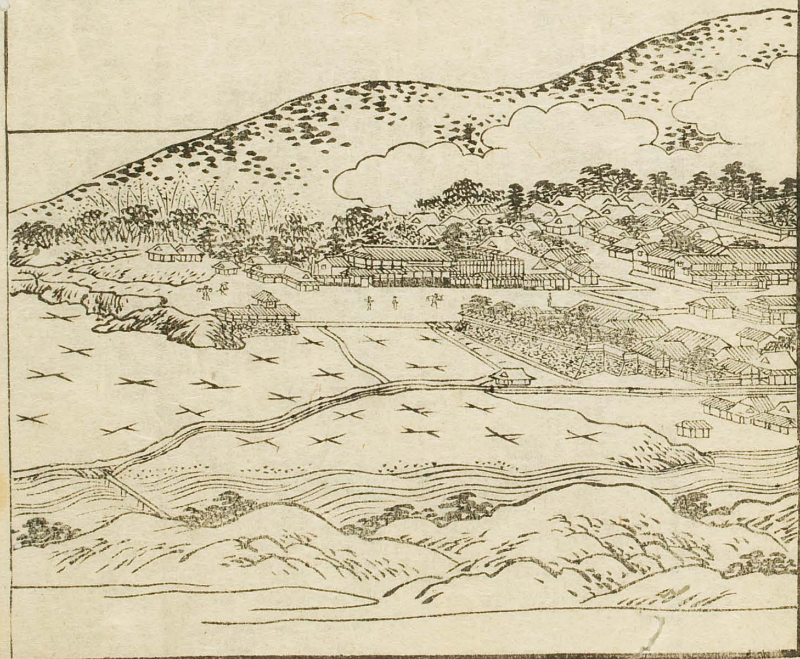
中ノ橋



多田莊
平聖湯

目玉山

山出
 金の移灰
 浴
 やま
 かざん
 多田の湯
 基元



多田の湯
 浴室



多田莊平聖湯

平聖湯、平野町の中、向ふあり、浴室の裏、方丈、神中、
温湯、其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
解、其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
入浴の湯、湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、
其湯の平、男女、分り、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、湯の形、平、

金山のりく、金取坑、約、そのあり、其、脈、さ、小、通、く、あり、其、精、氣、
全、た、冷、泉、ふ、し、わ、く、後、完、く、温、泉、ふ、し、わ、く、其、中、向、り、く、涌、出、
さ、る、半、涌、さ、る、り、味、も、鹹、く、淡、味、の、常、さ、る、あり、其、火、く、く、湯、
り、入、浴、と、或、く、多、田、温、泉、記、成、著、一、其、文、曰、く、禮、泉、之、光、武、帝、
中、元、年、中、禮、泉、出、系、師、の、人、あ、ね、飲、心、痼、疾、を、除、く、と、東、觀、記、云、

種分平一

引書、又、幸、州、小、禮、泉、出、所、の、常、要、か、一、王、者、德、茂、一、禮、泉、小、至、り、時、ら、
禮、泉、涌、出、一、く、老、人、を、治、す、と、書、す、抑、奉、朝、小、能、く、禮、泉、と、い、ふ、と、

其、濃、國、養、老、院、山、城、國、醍、醐、水、の、り、く、多、田、の、温、泉、ハ、金、氣、ヲ、
明、礬、の、氣、味、ハ、湯、さ、る、さ、る、衣、服、さ、る、時、ハ、必、害、あり、又、其、火、浴、を、行、

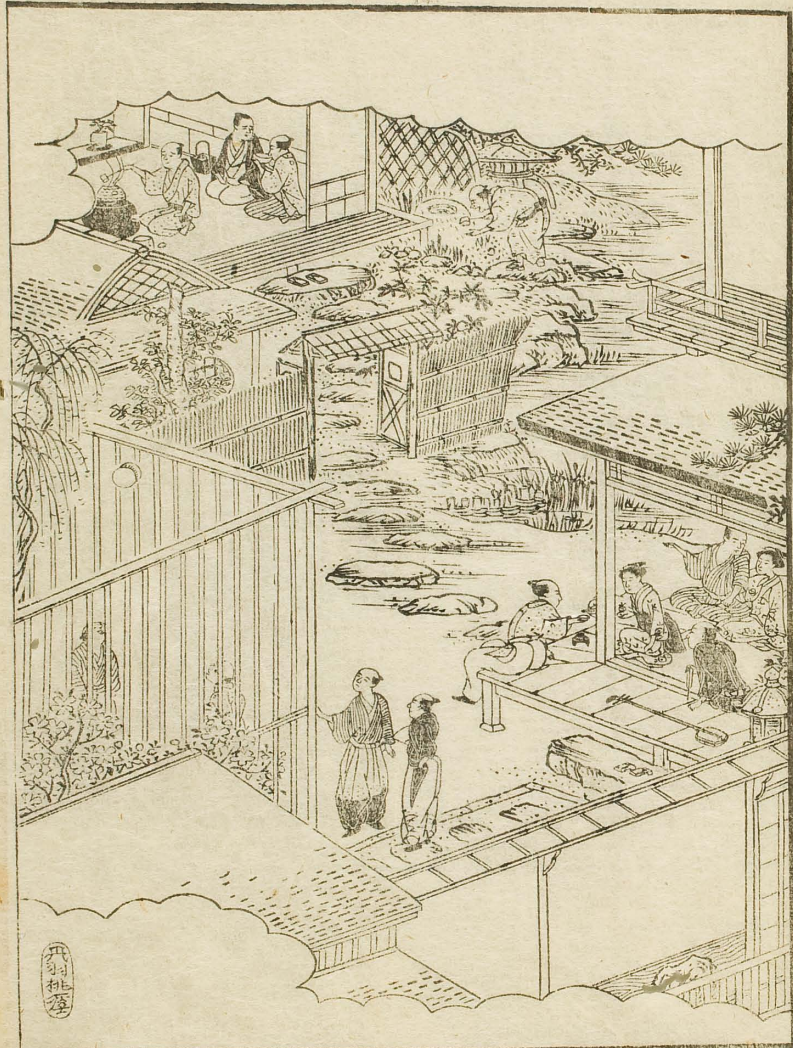
附、功、能、多、く、先、一、陽、明、經、の、病、固、ハ、治、一、五、臟、六、腑、ハ、皆、ハ、百、脈、ハ、
補、ハ、骨、髓、ハ、堅、一、筋、骨、を、盛、一、皮、肉、ハ、肥、一、精、氣、ハ、増、一、元、氣、ハ、

倍、一、血、海、を、潤、一、耳、目、ハ、明、一、心、神、を、安、一、氣、血、を、強、一、五、積、を、
治、一、痰、飲、を、去、一、痰、血、ハ、除、一、瘡、毒、を、解、一、其、外、諸、疾、ハ、益、あり、半、

神、の、水、一、里、旅、曰、原、ハ、金、泉、ハ、始、源、備、仲、ハ、神、明、の、若、ふ、よ、り、感、得、一、
少、さ、り、涌、出、次、中、ハ、洪、水、ハ、山、岳、と、く、賦、ハ、又、現、さ、る、ハ、隱、さ、る、一、半、

親、及、小、連、入、元、和、年、中、さ、る、天下、清、ま、れ、ハ、又、現、是、涌、出、以、え、縁、乃、頃、
官、家、小、頼、く、く、浴、を、建、遠、近、さ、る、入、浴、ハ、功、驗、著、一、其、を、日、下、坊、

繁、岡、の、地、と、さ、る、半、是、孫、陽、岡、土、の、温、泉、也、と、一、



井田社



多田入湯
旅舎

種六子

忠孝山小巻寺

多田庄西に村小あり

本尊阿弥陀佛

表に信都の地 観音堂

安に

幸壽丸塔

本堂の西

若原仲光塔

日所小

又丈丸塔

本堂の東

平井保岡塔

日所小あり

源綱塔

日所小隣に 松浦肥太寺あり

當寺に備仲との家臣若原仲光の長子幸壽丸の舊跡に備仲公乃所子又丈丸智學の爲小仲山寺小登山かごり一向經論をりる果人嫌ひ十五歳の以より勇極りて山野小獵一殺生は爲さずと放逸の初め之を父直友園中ひ父子の慈愛深切ありとてども豈を人乃爲不法とれさんや忠を又丈丸不孝不義と謀して疾を首以見を爲し是一殺多生の理とて仲光(教令あり)れ今ん力り密に又丈丸公謀しなると辭す之比叡山横川の惠心院源信少僧都乃寺(堂)に彼を我子の幸壽丸の首と斬り身代りて其君(貝)春小侍なる

備六甲三

又丈丸も忠節を感し彼を公房出家し源賢阿闍梨と成り又備仲公小見幸壽丸を喜提の爲し其公創則深賢を開基とて小童のを号しりる

潮井

日村小あり味ひ寛く鹹くは名にさる湯とて俗をれば法病と治法

煎銷塾 山下村小あり磯山郷く小ありと岩尻郷一坊と磯金脚ありと磯民とては春葉

一庫湯 多田庄一庫村の山中一庫川の側ありは約二畝金坑あり土人銀地といふ功徳に由り湯相同く少湯輕乃病因あり

名産一庫炭 一庫村及び山の中より多し出は中且豊村に上湯と皮製送は山中小炭竈と作り其中一生炭は四尺許且杖と立双杖炭とよみ並てはより火とめり中炭中火まらねて又立杖とて杖は炭の形なり翌日出ては後に入平に出候



陽平

善門寺 一筆村あり月山と野次
眞言宗

本尊聖観音 百済國目羅の他長三人
又堂内小弁財天と安次
加持水 本堂の乾小あり頼光公瘧疾の時
窟快摩王舎の加持一筆堂如く

三河太郎満義塔 其跡三河も頼氏
尚山も登り累年深家景致の古例
と慕ひ香花科小但梨樹并小
千院 尚山の境内あり

銅山坑 觀音堂本津内馬場
赤松氏田篠郡國崎
柏野田等の山中あり
銀山村 銀と名あり
飄草坑といふ

銀山村 銀と名あり
飄草坑といふ

扇風巖 大井村あり
巖の形扇風
立るとなにかく
敷六枚小入
あり
多サ
凡そ廿間許
中十間許
あり
流あり
多田川

殿上あり
岩上あり
街道あり
舟波
谷の通流
澄流
岩
不詳
殿上あり
岩上あり
街道あり
舟波
谷の通流
澄流
岩
不詳

裏扇風巖 日村の中あり
初の扇風巖より少く
小入

鳥帽子岩 日村の北あり
形五尺
内名と名と
又扇風村

鬼ヶ門 洞前の山あり
形石門の如く
人カ
及ひ

波豆川 大系聖溪に會し
有馬郡生野門小入

